

ステップ 3・4・5



札幌市立白楊幼稚園では、今年度「みんなの中でよくキラリ✨
～違って面白い！と思える子どもに～」という研究副主題を掲げ、一人一人の個性が輝き、互いの違いを認め合える「共生社会」の土台作りについての研究を進めてまいりました。

今年度の研究を通じて見えてきた、『キラリ』（「個性」「持ち味」「興味関心」）を輝かせるための事例から見えてきた成果と、次年度へ向けた課題をお伝えいたします。



「科学する心」の事例

チョウチョがタンポポの蜜吸ってる

🍌 今年度の研究の成果



「安心感」を基盤とした個性の輝き：一人一人の「好き」を大切に主体的な遊びを楽しめるようにしたり、子どもたちが「そのままの自分でいいんだ」という安心感（自己肯定感）をもったりできるような環境を整えたことで、好きなことに没頭し、自分の「キラリ」を発揮する姿が多く見られるようになりました。自分が大切にされているという実感は、友達を思いやる「心のゆとり」へと繋がっています。（主に長期の記録から読み解く個別の事例より）

「当たり前」の見直しと多様性の尊重：劇遊び「ネズミの嫁入り」での役決めに性別の枠を設けないなど、大人の目線にある「性別による枠組み」を問い直しました。これにより、子どもたちは「男の子だから」「女の子だから」という固定概念に縛られず、自分の「やりたい」を素直に表現できるようになっています。（主に性別にとらわれない年中発表会・自分たちで進めた年長発表会の事例より）

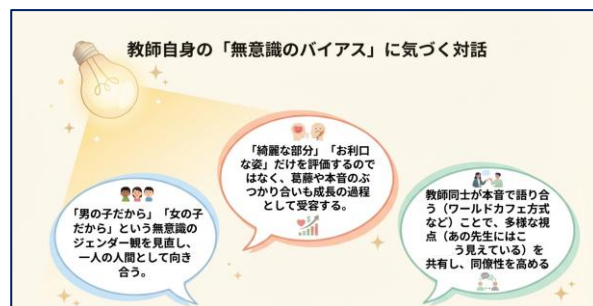
目には見えない「足場」を組む：「みんなで仲良くしなさい」と直接指導するのではなく、子ども同士が自然に関わりたくなる「仕掛け」を用意したり、タイミングを計り環境を整え、時にはあえて見守ったりするなど、自発的な遊びの裏に、友達との関わりを生む環境を潜ませることで、それぞれにとって心地よい友達との関わりが生まれていました。（全ての事例・エピソード研修・「科学する心」の事例より）



教師間のチーム力向上：子ども一人一人の何気ないエピソードを職員間で共有し、多角的な視点から「その子のよさ」を価値付けることで、質の高い支援に繋がる共通理解が深まりました。

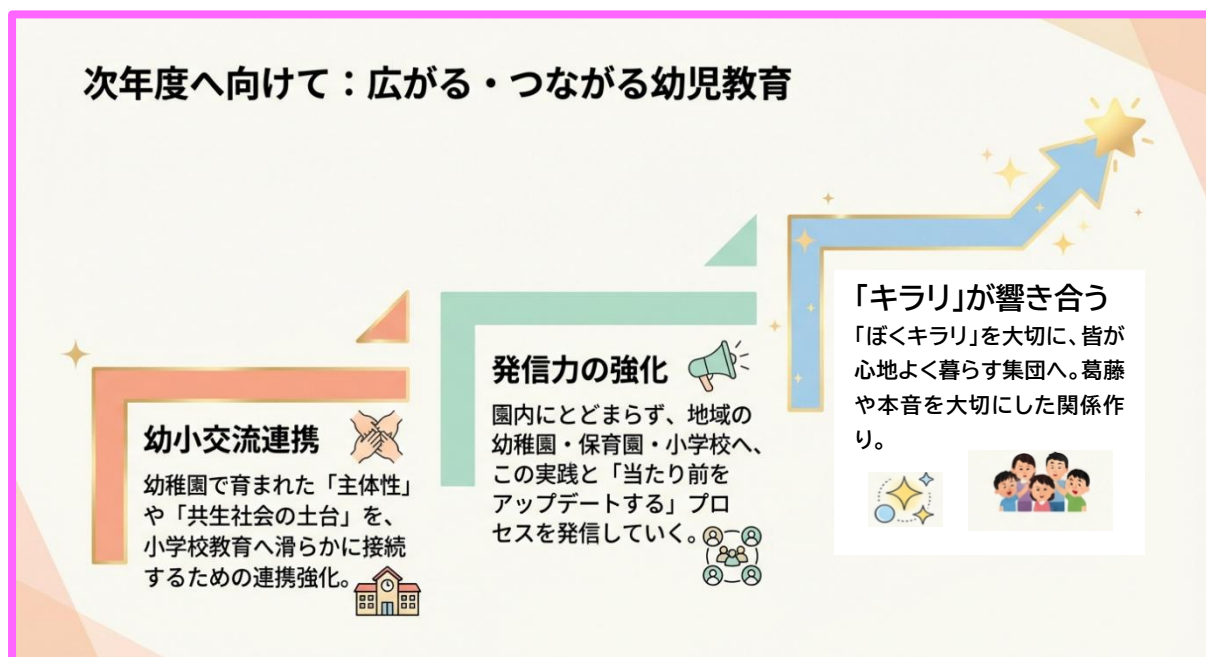
★次年度に向けての課題

「本音」を出せる、受け止め合える関係作り：
「優しくする」といったきれいな姿だけでなく、
子どもたちの「本音（葛藤や嫌な気持ち）」も
大切にしていきたいと考えています。ぶつかり
合いを避けるのではなく、本音を出し合い、
どうすればみんなが心地よく過ごせるかを共に探る
プロセスを深めていきます。



「キラリ💡のステージの作り方」を深堀り：「キラリ💡のステージ」は、全員が同じ階段を登る「ステップ（段階）」ではなく、教師が整える「ステージ（環境・援助）」と考えています。子どもたちがそれぞれのタイミングで輝くようにするためには、スポットライトを当てる位置を柔軟に変え、環境という舞台を調整し続ける必要があります。目には見えない足場かけの実際を具体的なエピソードで探ります。

家庭や地域との共有と発信：園での子どもたちの育ちや研究の成果を、ホームページ等を活用しながら、より分かりやすく皆様へお伝えする工夫を続けていきます。特に本園の研究が地域の子どもたちの育ちにもつながるよう地域の教育機関との連携を深めたいと思います。



白楊幼稚園は、これからも子どもたち一人一人の「キラリ」を大切に、小さな共生社会の実現を目指していきます。

皆さんの感想もぜひ教えていただけたら嬉しいです。また、本園の研究便りのバックナンバーはこちら→
教育関係者限定で 詳しい事例の内容を公開します。事例の詳細を希望する方は、
hakuyo-k@sapporo-c.ed.jp までメールでお問い合わせください！



令和 7 年度ソニー幼児教育プログラムに応募した「科学する心」を育てる本園論文はこちら→

